

日本では、台風や梅雨の時期の大雨などにより、毎年さまざまな被害を受けています。その被害には、どのようなものがあるのでしょうか。

毎年、夏から秋にかけて日本にやってくる台風は、各地にさまざまな被害をもたらしています。また、とつぜんの雷や大雨、竜巻による被害も多く発生しています。

## ●大雨



△雨であふれた川

大雨がふると、川の水があふれて、ていぼうをこえ、道路や建物、田畑などに水が流れこむことがあります。



△雨でくずれた土砂

山に大雨がふると、土砂くずれなどにより、家がこわれることがあります。

## ●強風



△風でたおれ、折れ曲がった電柱

強い風がふくと、屋根が飛ばされたり、家がこわされたりすることがあります。

また、電柱や木がたおされることもあります。

## ●大雪



△雪の重みでこわれた家

大雪がふると、雪の重みで建物がこわれたり、自動車や電車が動けなくなったりすることがあります。

## ●落雷



△地上に落ちる雷

雷は、周りより高い所に落ちやすいため、グラウンド、屋外プール、海などでは人に落ちることがあります。



雷は、大きな木やかさにも落ちやすいので、木の下で雨宿りするのはきけんだよ。

## ●局地的大雨



△水がふえる前の川



△水がふえた後の川 (水位が約1m30cm上がった)

数十分の短時間に、せまいはんいでふる急な大雨のことを局地的大雨といいます。川の上流が大雨の場合、自分がいる所に雨がふっていないなくても、川の水がとつぜんふえることがあります。

台風などがもたらすさまざまな被害を知り、自分の身を守れるようになることが大切です。